

暮らし塾 さんゆう塾

vol. 20
2012春号



●巻頭インタビュー

新しいことに挑戦を続けて
若さを保とう

医学博士 日野原重明

●特別寄稿

これからの日本経済、
そして私たちの暮らしとお金

東京大学大学院経済学研究科 教授
総合研究開発機構 (NIRA) 理事長 伊藤元重

●連載エッセイ 会計士のやさしいお金のお話—
平清盛とお金

公認会計士 山田真哉

●金融教育の現場レポート

大学における
金融教育の実践授業

新しいことに
挑戦を続けて
若さを保とう



日野原 重明

巻頭
インタビュー

医学博士

くらし塾
さんゆう塾

vol.20

●巻頭インタビュー	2
●特別寄稿	6
これからの日本経済、 そして私たちの暮らしとお金	
●連載エッセイ	11
—会計士のやさしいお金のお話— 〈第4回〉平清盛とお金	
●まんが わたしはダマサレナイ!!	14
貴金属などの 訪問押し買い詐欺	
●老後に備える	17
老後をイキイキ過ごす	
●委員団体の活動紹介	18
一般社団法人全国信用金庫協会 社団法人全国労働金庫協会	
●たべもの百面相	20
寿司(すし)	
●働く人のライフ&マネープラン	22
退職金にかかる税金	
●金融教育の現場レポート	24
大学における 金融教育の実践授業	
●にっぽんおかね紀行	28
駕籠のお代はいくらだった?	
●知るぼとらウンジ	30
都道府県金融広報委員会 事務局員の活動紹介 金融広報アドバイザーの紹介	
●知るぼとファミリーのご紹介	32
●おたよりコーナー	33
●都道府県金融広報委員会一覧	34
●知るぼと最前線	35
作文・小論文コンクールの審査結果	

●題字 矢田勝美
●表紙イラスト オオノ・マユミ

100歳を超えた今も

現役の医師として医療に携わりながら、講演や執筆に精力的に取り組む

日野原重明先生。

現在も高齢者の

新しい生き方を提唱する

「新老人の会」の全国展開や

子どもたちに命の大切さを教える

「いのちの授業」など

その活動はさらに広がっています。

そんな日野原先生に幸せやお金観、

そして有意義に人生を過ごしていく

ヒントを伺いました。



●日野原 重明（ひのはら・しげあき）

1911年山口県生まれ。37年京都帝国大学医学部卒業。41年聖路加国際病院内科医となり、院長を歴任し現在、聖路加国際病院理事長・同名養院長、財団法人ライフ・プランニング・センター理事長など。東京都名誉都民、文化功労者、文化勲章受章。

人生は与えられたもの。 だからこそ人や社会のために使う

取材で訪れたのは日野原重明先生が理事長を務める病院の理事長室。ソファに腰掛け、寸暇を惜しむようにインタビュー用の質問項目に目を通す日野原先生がそこにいた。

改めて紹介するまでもないが、日野原先生は日本で最も忙しい100歳の一人。テーブルの上にはたくさん書籍や資料が積まれていた。その様子からも多忙さが窺われた。この取材は、毎朝の回診後に時間をいただいて行われた。取材の後も分刻みのスケジュールが日野原先生を待っている。

100歳を超えてなお、仕事を精力的に続けていく、その活力はいつたいどこから来るのだろうか。それを考えていた矢先に、独特の柔和な笑顔が私たちに向けられた。

「命も時間もお金も何のためにあるか。そして何のために使うか。それが大事だと思います」

そう言って日野原先生は自身の人生の転機となったハイジャック事件について語り始めた。

1970年3月30日。当時現在の病院の内科部長だった日野原先生は、福岡で開催された内科学会出席のために旅客機「よど号」に搭乗していた。その機内で起こったのが「よど号ハイジャック事件」である。日本では犯罪史上初となるハイジャック事件。

そこで日野原先生は人質の一人となり、日本海を越

える。解放されたのは韓国の金浦空港だった。

「もう40年以上も前のことになりましたが、そのときのことは今でも鮮明に覚えています。犯人側が指示した北朝鮮に向かっていた飛行機。金浦空港で降ろされ、解放された瞬間に私は決心しました。これからの人生はいわば与えられた人生。だから人のため、社会のために身を捧げようと決めたのです」

と話す日野原先生。その人生には大きな目的意識が常にある。

人間ドック。終末期医療。 医療の世界で数多くの足跡を残す

日野原先生の口から出る人生という言葉。それは誰も真似ることのできない重さがある。100年の年輪を重ね、さらにそれを増し続けている日野原先生。その人生は明治44年、父親が牧師を務める家族の次男として始まる。

兄弟は6人。父親が牧師をしながら得る収入は大家族を支えていくには乏しく、子ども時代から質素な生活を送ったという。そんな日野原先生が医学の道を志したのは10歳のとき。尿毒症にかかり重篤状態に陥った母を懸命に治療する医師の姿に感動したことがきっかけだった。

その夢は変わることなく、質素な生活の中で学費を工面しながら京都大学医学部に進む。在学中に当時、不治の病とされてきた結核に罹るなどの試験に直面するが、それを乗り越え、昭和16年に念願の医

師としての人生をスタートした。

内科医として日野原先生は予防医学の大切さを早くから訴え、私立病院としては日本初となる人間ドックを昭和29年に開設。終末期医療の普及にも尽くしてきた。

また地下鉄サリン事件が発生したときは、院長として640人もの被害者の受け入れを無制限に実施し、犠牲者をただ二人に食い止めることにつながったことはマスコミでも大きく取り上げられた。さらに現在では定着している「生活習慣病」の名称も日野原先生によって名づけられた。医療の世界で日野原先生は数多くの足跡を残している。

「GNH（国民総幸福量）」に学ぶ これからの豊かさの考え方

「大切なものは目に見えない」それは作家サンテグジュペリが星の王子様で話している言葉です。幸福はとても大事なものです。けれどそれはお金や、家、勲章といった目に見えるものだけで得られるものではないと思うのです」と日野原先生は幸福観について話しはじめた。そこで紹介されたのはブータンの「GNH」という考え方だった。GNHとは、Gross National Happiness、つまり「国民総幸福量」を意味し、1972年にブータンのジグミ・シンゲ・ワンチュク国王が提唱した。GNPで示されるような物質的・金銭的には測れない精神的な豊かさを目指す視点がそこにある。

「ブータンはGNPが高い国ではありません。けれどGNHつまり『私は幸福』という意識を一番多く持つ国とされています。私はここにこれからの日本が学ばべき多くの課題があると考えています。ある程度の医療。そして命をつないでいくべき食事。それが整っていれば、豊かな人生はお金の多さではない。その意識改革が日本人に今こそ必要だと私は考えています」と日野原先生は話す。

子どもたちへ。そして若い世代に贈る 命と時間の使い方

日野原先生は数年前から小学生たちに命の大切さを教える『いのちの授業』を全国の小学校に出向いて行っている。

そこで必ず子どもたちに「命はどこにあるのか」という質問をする。

「ほとんどの子どもたちは、自分の左胸を指し、命は心臓にあると答えます。けれどそれは違います。心臓は血液を体中に送る重要なポンプの役割をしていますが、命そのものではありません。他の内臓器官も同じです。授業を通じて子どもたちは、命は指さして見えるものでもなく、目に見えないものだということを理解していきます。そしてここでも私は、サンテグジュペリの『大切なものは目に見えない』という言葉を紹介し、命のほかに時間も目に見えないことを話します」

目には見えない大切な命と時間。それは『生きる』

ということに凝縮している。だからこそ生きていく尊さがそこにある。

そこで日野原先生は野口雨情が作詞したシャボン玉の歌に託された歌詞の意味を教える。歌に登場するシャボン玉は、ただの泡ではなく、野口雨情の幼くして亡くした女の子の命を表現していると言われていると聞くと、子どもたちの表情は変わってくる。

そして授業は、いつもみんなでシャボン玉の歌を口ずさんで締めくくられる。空に向かって飛んでいくシャボン玉、それが吹く風で消えないように願う作者の切ない思いを子どもたちは歌う中なかみしめていく。と同時に、大切な命をいじめなどで傷つけてはいけないことを理解していく。

子どもたちだけではない。日野原先生は機会があるごとに若い世代へアドバイスを送っている。

そのときによく例に出すのがアメリカと日本の学生の違いだ。日本では講義が教師の都合で休講になってもクレームは出ないが、アメリカの大学では学費をローンを賄ってでも、自分自身が学びたいという姿勢が強いため、教師側の都合での休講に異を唱える学生が少なくない。そこには日本の学生にはない自立心が感じられるという。若いうちは自分の可能性を伸ばす勉強への「投資」が大切だと日野原先生は訴える。

では成長後の人生は何のために生きるべきなのだろうか。日野原先生の答えは「社会のため」。難民や病気の人々などを支援していくことも大切なことであるが、それだけではなく、普段の生活をどうやって充実

させるかも大切な命の使い方であり、それが他者へと
の関わりにつながり、社会のためになるのだという。

成長期は自分のために。それ以降は他者のために。そういつた時間の使い方をしてほしい。そんな願いを日野原先生は10歳の子どもたちのような若い世代に託している。

100歳はゴールではなく、通過点。 今日も何かを始めよう

インタビューの話題は高齢者に移る。第2の人生、あるいは第3の人生を送る人々に対してのお金の使い方をアドバイスしてくれた。

「世界的な視野で見ると日本の高齢者はお金を預貯金としてたくさん持っています。そのお金は使つてこそ、意味があるのです。もしもより健康で安心できる生活を考えるなら、質の高い老人ホームのために使うという方法もあるでしょう。さらにそれだけではなく、できるだけ医療や福祉、文化など世の中の役に立つことに使つてほしいと思っています」

日野原先生は数年前から「新老人の会」を発足させ、その普及にも精力的に取り組んでいる。老人と言えは一般的には「老化」という負のイメージがある。しかし、この会では老のイメージを英語の「elder」に近い尊敬と捉えている。そして尊敬に値する老人として生きていくために、この会では(1)愛し愛されること(2)創めること(3)耐えることの3つのモットーを挙げている。



日野原重明 インタビュー

「この会では75歳を超えてからパソコンや詩吟など新しいことを嬉々として習い始める高齢者がたくさんいます。私も98歳で俳句を始めました。ユダヤ人(オーストリア生まれ)の哲学者、マルチン・ブーバーの言葉に『人は創めることを忘れない限り、いつまでも老いない』とあります。その名言の通り、私も新しいことに挑む限り、人は老いないことを実感しています。

3つめのモットーにある『耐える』。そこには、冬来たりなば春遠からじの思いを込めました。阪神大震災を耐え抜いた人々が、昨年の東日本大震災の支援に大きく活躍しています。耐えることは、人を

支え、励ます大きな力になるのです。冬の間、雪が積もると笹の葉はその重みで俯き加減になるでしょう。しかし、やがて雪が溶け、春になれば笹の葉は力強い生命力を発揮し、上へ上へと伸びていきます。人も同じはずです」

日野原先生はインタビューの終わりに自身の100歳の心境を関所にたとえて話してくれた。日野原先生にとって100歳とはゴールではなく、関所、つまり通過点に過ぎないという。まだまだやるべき仕事がある。そのために日野原先生は今日も生きる。

特別寄稿

これからの日本経済、 そして私たちの 暮らしとお金

少子高齢化、グローバル化など日本経済は大きな変化の中にあります。こうした変化は、私たちの日々の生活にも影響します。読者の皆さまからいただくお便りでも、最近の金融・経済の動きなどをわかりやすく解説して欲しいとお声が増えていました。そこで、今回は、さまざまな方面で活躍されている伊藤元重先生に「これからの日本経済、そして私たちの暮らしとお金」と題して特別に寄稿していただきました。



伊藤 元重

東京大学大学院経済学研究科 教授
総合研究開発機構 (NIRA) 理事長

経済産業省 産業構造審議会 新産業構造部会 部会長／財務省 関税・外国為替等審議会 会長／公正取引委員会 独占禁止懇話会 会長

著書に『入門経済学』（日本評論社、1版1988年、2版2001年、3版2009年）『ゼミナール国際経済入門』（日本経済新聞社、1版1989年、2版1996年、3版2005年）『ビジネス・エコノミクス』（日本経済新聞社2004年）『ゼミナール現代経済入門』（日本経済新聞社2011年）など多数

金融・経済の変化を見る力を磨く

経済リテラシーとか金融リテラシーという言い方がある。経済や金融の動きについてある程度の知識と理解力を持つていることである。リテラシーとは本来は文字の読み書きができることを意味する。それを拡張解釈して、ITリテラシー、健康リテラシー、法律リテラシーなどの言い方をするところがある。それぞれ、IT(情報通信技術)をある程度使いこなす能力、健康や医療についての知識を持つていること、法律について無知ではないこと、といったような意味である。

複雑になった現代社会では、こうしたさまざまなリテラシーを、国民の多くが持つていることが必要になってくる。昔の単純な社会であれば、読み書きソロバンでよかったのかもしれないが。

そうした中で、金融リテラシーや経済リテラシーは重要である。私たちの生活は日々さまざまなリスクに直面している。また、経済や金融の

知識があれば、より快適な生活ができるかもしれない。そして何よりも、自分や自分の家族の生活を守るためにも、金融や経済の知識は必要である。政府による政策への意見をきちっと持つている国民が多ければ、正しい政策が行われる可能性も高くなる。

今の日本経済は大きな変化の中にある。20世紀の後半、人口が増え続けてきた日本であったが、少子高齢化で今後は人口減少と高齢化がさらに進んでいく。年金・医療・介護などの社会保障の制度もそれに合わせて変化をせざるをえない。こうした変化はどのような形であるべきか、そしてそうした変化が自分たちの生活にどのような影響を及ぼすのか知る必要がある。

変化は高齢化だけではない。中国をはじめとする近隣のアジア諸国が急速な成長をとげ、グローバル化が進展していくことで、日本国内の産業構造や雇用の姿も大きな影響を受けている。こうした変化は私たちの日々の生活にもさまざまな影響を及ぼす存在である。その影響は、よい方向にも悪い方向にも向かいうるものである。どうせ影響を受けるので

あれば、正しい方向での影響を受けるような社会や個人の取り組みが必要である。

遠い将来を見れば 分かりやすい

足もとの複雑な経済の状況を見ると、これから日本経済でどのような変化が起きるのか非常に見えにくい。しかし遠い将来に視点を移せば、日本経済の向かっていく方向は分かりやすいし、私たちがどのような対応をすればよいのかも明らかだろう。

たとえば、いま大きな話題になっている税と社会保障の改革についてはどう考えればよいだろうか。これから高齢者がどんどん増える。高齢者の方が若者よりも病気にかかりやすく、医療費は確実に増えていくだろう。また、高齢者が増えるほど、そして多くの人の寿命が長くなるほど、生涯でみた年金支払額の総額は増えていかざるをえない。今の高齢化のスピードを考えれば、こうした医療や介護や年金の財政負担が大変な勢いで増えていくことは間違いない。

常識的に考えても、こうした状況に対応するためにできることは二つしかない。医療・年金・介護などの社会保障の制度を抜本的に見直し、可能な部分については公的負担をカットすること、つまり国民の負担を増やすことだ。そしてもう一つは、増税をして社会保障費に回していくことだ。その一方だけでは十分ではないだろうから、増税と社会保障の見直しの両方が必要となる。そうした財政健全化を怠れば、今のギリシヤで分かるように、経済は大変なことになる。

高齢化対応には時間がかかる。団塊の世代が引退しはじめている現在、年金の負担が増えている。しかし、医療費についていえば団塊の世代が75歳を超えるようになる2025年以降にもっと深刻になるだろう。日本の高齢化は時間のかかる長いプロセスである。だから、高齢化への対応策についてもこれからずっと続く。

そうした長期の調整を考えれば、年金の支給開始年齢が引き上げられていくこと、経済力のある高齢者には医療費の個人負担を増やしてもらうこと、そして消費税を少しずつ引

き上げていくことが必要となるだろう。すべてをすぐにやるということではなく、5年、10年、15年と時間をかけて少しずつ対応していくということだろう。私たちはこうした大きな流れをしつかりと受け止めて、自分や家族の将来に備えなくては行けない。「こんなはずではなかった」ということがないように人生設計をしなくては行けない。

少し長い時間での経済の大きな変化として、もう一つ重要なものがある。アジア経済の成長とグローバル化の進展である。日本が成長を続けたとしても、いずれはアジアに日本よりも大きな国が三つできると言われる。すでに日本より大きくなった中国に、インドとASEAN(東南アジア諸国連合)である。ただし、ASEANは正確には国ではなく、地域連合である。

日本はこれらの国々とますます深い関係を持つことになるし、グローバル化の進展の中でアジアの成長のメリットを受けることもできるだろう。こうした流れを日本に有利なものとするためには、日本は積極的に市場を開放していかなければならない。

自由貿易協定や経済連携協定を積極的に締結し、人、モノ、カネ、企業、情報など、さまざまな面で国境をこえた結びつきを強めることが求められる。

昨年、TPP(環太平洋経済連携)の交渉に参加すべきか否かで、国内で大きな論争となった。農業者の人々が市場開放を警戒するのは理解できる。しかし、国を閉ざしては、日本はじり貧になるばかりである。足もとでの困難はいろいろあるかもしれないが、方向としては市場を開放し、海外との連携を高めていくしかない。それなしに、日本の経済社会を活性化する道はないのだ。

国民の判断が 日本の将来を決める

ある政治家が次のように言っていたそうだ。「日本には国民の意見が大きく割れる問題がある。たとえば、数年以内に消費税を上げること賛成か反対かと聞いたら、意見はまっ二つに割れるだろう。どんなに議論を尽くしても、賛成か反対のどちら

かに収束することはない。T P Pへ参加するか否かでも、国論が二分された。この問題についても、どんなに論議を尽くしたとしても賛成か反対のどちらかにまとまることはない。政治の重要な役割は、こうした意見の割れる問題について政治的な決断をし、そして国民の判断を仰ぐということだ。」

最後は選挙で多数決でしか決められない問題もある。賛成とも反対とも決めかねて問題を先送りしてはいけない問題もある。これまで日本はあまりに多くの問題を先送りしてきた。それが今の日本経済の閉塞感の背景にある。

ここで重要になるのは、国民の判断の質である。国民の多くがしっかりとした見識をもって正しい判断をすれば、日本がおかしな方向に行くことはない。しかし、耳当たりのよい話や声の大きな政治家の声に踊らされて、社会を破滅させる方向の選択を国民がするようであってはならない。残念ながら、多くの国でポピュリズム（大衆迎合）が横行し、社会や経済が劣化していった。日本でそうしたことを起こさないためには、

経済や政治を見る国民の目が確かではなくてはいけない。その意味でも経済リテラシーが重要であるのだ。

基本は将来への投資と分散

ハーバード大学のビジネススクールの名物教授が、ビジネススクールを卒業する学生に次のような話をしたそうだ。「ハーバードのビジネススクールを出る人は、普通の人よりも頭はよいはずだ。しかし、卒業から何十年もたつてみると、離婚や家庭破綻や自殺など、どう考えても人生に失敗したように見える人が多い。なぜだろう。おそらく大学でしっかりと投資の理論を学ばなかったからかもしれない」と。

若いときにはキャリアアップに燃えている。このレポートを今晩中に仕上げれば、あるいはこのプレゼンテーションをもう少し改善すれば、ということでも毎日遅くまで仕事をす。週末も仕事に出る。それでは伴侶や家族はたまったものではない。家庭は次第に壊れていく。最後には取

り返しのつかないことになることも少なくない。自分にとつて人生で本当に大切なことは、家族と楽しい人生を過ごすことであるはずだ。そのためには、毎日家族いっしょに過ごす時間を確保するという、「将来への投資」をしっかりとしておく必要がある。

家族を犠牲にしてレポートをもう一本読むことより、家族と一緒に食事をする方がはるかに投資の価値は高いはずだ。ただ、レポートを読むという投資の効果は明日にも出てくるかもしれないが、家族との時間を大切にするとという投資の成果はずっと後になって出てくるものだ。頭が切れるといわれるハーバードの卒業生でも、どうしても投資の短期的利益に目を奪われ判断を誤る。

なかなか含蓄の深い言葉である。目先の利益に目をくらまされてはいけない。長期的な投資にこそ、本当の利益が生まれるというものだ。人生はすべて投資である。メタボから糖尿病になることがないよう、食事に気をつけて運動も心がける。将来のキャリアアップを可能にするために勉強する。人生を通じてつきあえる友人をしっかりと作るために、とき

には自分の時間を犠牲にしても、その友だちのために時間を使う。投資は決して辛いものではない。勉強することには喜びもあるし、友だちと時間を過ごすことは楽しいものだ。

資産運用における投資も同じような面がある。株式や投資信託に投資すると、どうしても目先の収益が気になる。あるいはこの資産に投資すればすぐに儲かる、などという怪しい勧誘について乗ってしまう人もいるかもしれない。投資の収益は重要ではある。しかし、高いリターンを求めようとすれば、それなりのリスクが伴うことになる。大切なことは手取り早くもうけを出すことではなく、長い人生を心豊かに過ごすことである。長期の投資という点を意識することは、人生において重要であるのだ。

よく聞く話であるが、新興国への投資は利益が高いと投資する人がいる。たしかに新興国は成長のスピードが速いので、新興国がらみの投資は高い利益を上げる可能性がある。だからといって、インドや中国関連の投資をすれば、すぐにでも高い利益を上げられると期待するのはおかし

い。新興国への投資は高いリターンの可能性もあるが、同時にリスクも大きい。5年、10年で見れば高いリターンを上げられるかもしれないが、1年後、あるいは2年後に思わぬ危機に見舞われることがないとは言いがれないからだ。

投資運用には、分散投資という視点が必要である。すべての投資にはリスクがあるので、できるだけ分散投資することで、何が起きても全体でバランスをとるのだ。円高になるか円安になるか分からないし、株もいつ値が上がるのか、いつ値が下がるのかを読むのは困難だ。不動産価格も高くなるときもあれば、下落の時もある。金利もいつまでも超低金利が続くという保証もない。市場の大口といわれる金融機関の人たちでも、株や為替でしばしば読み誤る。誰にも将来を予想することはできない。

市場がどちらに動いても困らないようにすることがリスク分散の基本である。投資の重要性とリスク分散ということを深く理解するようになることが、金融リテラシーを高めるための第一歩といえるのかもしれない。

特別寄稿

これからの 日本経済、 そして私たちの 暮らしとお金

平清盛とお金

公認会計士としても作家としても活躍されている山田真哉さん。今回は、あの歴史上の人物と貨幣についての興味深いお話です。

今回のテーマは「平清盛とお金」である。

いったいなぜ、『くらし塾 きんゆう塾』で平清盛をとりあげるのか、疑問に思われる方も少なくないだろう。

これは、単にNHK大河ドラマのブームに乗っかるうとか（実は私、このドラマの制作段階から経済に関する助言などを行っている）、私が平清盛関連の本も書いたことがあるからだとか、そんな軽い気持ちで決めたことではない。

さかのぼること二年前、このエッセイがスタートした当初から「連載のうち一回は平清盛について書かせてください！」と担当編集者に宣言していた念願のテーマなのである。

なぜ平清盛が「お金の話」に登場するのか？

それでは、なぜ私がそこまで平清盛のことを書

きたいと思っていたのか？

端的にいうと、「私が神戸の出身だから」である……といわれても、分かりづらいのは無理もない。世間一般における平清盛のイメージといえば「天皇家をないがしろにし、源氏をいじめ、庶民に対しては恐怖政治を敷いた、凶暴で強欲な大悪人」といったところだろう。しかし、神戸市民のもつイメージはこれとは180度違う。なぜなら、平清盛は神戸港を「地方のよくある港」から「世界でも有数の国際貿易港」へと変えた英雄だからである。さらに、一時的とはいえ首都を京都から神戸に移してくれた大恩人でもある（1180年の福原京遷都）。

そもそも、世間一般の平清盛に対する悪役イメージは、その出所のほとんどが『平家物語』、つまり源氏方が作ったフィクションをもとにしたものであるから、当の清盛にとってはとんだ冤罪である。

山田 真哉

やまだ・しんや

公認会計士・税理士。1976年兵庫県神戸市生まれ。大阪大学文学部史学科卒業。大手監査法人を経て、現在、会計事務所所長。企業のCFOや政府の委員、経済ドラマのブレーン等も務める。

代表作は160万部突破の『さおだけ屋はなぜ潰れないのか?』など。会計ミステリー小説『女子大生会計士の事件簿』はシリーズ100万部を突破し、TVドラマも放映された。現在、NHK総合『ゆうどきネットワーク』『ビジネス新伝説 ルソンの壺』、BS11『ベストセラーBOOK TV』などにレギュラー出演中。最新刊は、歴史経済ミステリー『経営者・平清盛の失敗』。



あれこれ述べたが結局、ひとえに私自身が「平清盛が大好き！」というのが、今回の記事を書くとした最大の理由である。しかし、もちろんこの連載エッセイのタイトルが『会計士のやさしいお金の話』であることを忘れたわけではない。

「平清盛」と「お金（銭）」は、実は密接な関係にある。清盛の活躍した平安時代末期は日本経済史上において極めて重要な時代、つまり、それまでの絹や米といった「モノ」をお金の代わりに使う経済から「貨幣」を使う経済へと、社会を二変させた時代なのである。

——さて、この説明を聞いて、あなたは果たして「ふむふむ、なるほど」と納得しただろうか？ だとしたら、もう一度、学校の授業で習ったことを思い出してほしい。

日本で最初の貨幣といえば、奈良時代直前に生まれた「和同開珎」である。若い方なら、「それより前に富本銭が作られた」と習ったかもしれない。このように、平安時代より前からすでに日本には貨幣があつたにも拘わらず、平安時代末期に「絹や米といったモノを使う取引から貨幣を使う取引に変わった」というのはどうもオカシイ……と疑問をもつて当然なのだ。

では、この疑問についてタネ明かしをしよう。実は、和同開珎などの貨幣は平安時代の途中ですっかり廃れて、世の中から姿を消していたのだ。大河ドラマで清盛の少年・青年期をご覧になった

方なら、商売や博打のシーンに銭が決して出てこず、絹や米といったモノで取引がなされていることに気づいたかもしれない。

こうなると、当然、次の疑問が出てくる。果たして和同開珎などの貨幣は、いったいどこに消えたのだろうか？

日本初の貨幣「和同開珎」はどこに消えた？

西暦708年のこと。日本の朝廷は、当時中国で普及していた銅製の貨幣にならって「和同開珎」を発行した。そして、この貨幣発行で得た利益も

使って、710年に新しい都が造られる——それが、「平城京」である。奈良時代はこうして幕を開けた。

その後は偽造対策などの理由で「万年通宝」や「神功開宝」といった貨幣がつくられる（和同開珎を含めると12種の貨幣がつくられたため、「皇朝十二銭」と呼ばれる）。しかし、近畿地方を中心に流通したこれらの貨幣も、平安時代前期には廃れはじめ、958年の「乾元大宝」を最後に、新たな貨幣がつくられることはなくなってしまう。（次に日本で全国的な流通貨幣がつくられるのは、江戸時代まで待たなければならぬ）

では、日本の古代貨幣はどうして廃れてしまったのだろうか？ シンプルに説明すると、次のような流れになる。

- 1 平安時代、貨幣の原材料である銅が枯渇して採れなくなった
- 2 少ない銅に鉛などを混ぜ、むりやり新貨幣をつくった
- 3（旧貨幣に比べて）見た目も素材も悪くなったことで、人々の新貨幣に対する信用が低下した
- 4 取引で「新貨幣の使用はお断り」というケースが増え、使いづらくなった

これを繰り返した結果、貨幣自体が使われなくなったのである。取引の場で拒まれると、貨幣は一気にその存在意義を失ってしまうのだ。



これと似たようなことは現代でも起こりうる。私がひそかに愛してやまない紙幣「二千円札」も、「信用」に問題があるわけではないのに、発行当初に自販機や券売機で使えなかったことが未だに尾を引いている。

「受け取ってもらえるかどうか」——それが、貨幣流通の運命を大きく左右しているのである。

経済史上最大のミステリー 「宋銭普及」

平清盛の活躍した時代に、日本が日宋貿易でも多く輸入していたもの、それは「宋銭」——つまり、中国でつくられた銅銭であった。日本に大量に流入した宋銭は、それまでの絹や米に代わって、日本の通貨として急速に普及していった。それも、朝廷や幕府の後押しは一切なく、あくまでも民間レベルで普及していったのである。

それ以後、実に戦国時代までの約400年間、日本では宋銭が通貨として使用されることになる。どうして日本で、宋銭という「外国貨幣」が「急速」に普及したのか——この謎は、日本経済史上最大のミステリーといわれている。

この謎に迫る仮説はいくつかあるが、一般的には「宋銭は国際的に通用する貨幣だったから日本でも受け入れられた」という説が知られている。これを「国際通貨説」としよう。確かに、宋銭は東アジアのみならず、東南アジアやペルシア、アフリ

カ方面でも使用された形跡がある。

しかし、同時期の朝鮮の統一王朝「高麗」では宋銭はほとんど流通しておらず、米や布を使う取引が行われていた。また、他の東アジアの国々を見ると、宋銭が流通した国では決まって自国の独自通貨が併せて使われていた。つまり「自国の通貨が廃れていたのに宋銭だけが普及した」という日本の特異な状況は「国際通貨説」では説明がつかないのだ。

他の仮説もある。「社会全体の生産力が向上した結果、余剰の生産物ができたが、これらを交換・流通させるためには絹や米を使った取引では不便だったため、金属貨幣が強く求められた」というものだ。しかし、貨幣が流通するためには、共同体の構成員の大半がそれを通貨として信用しなければならぬ。単に「便利なものだよ」というだけで、当時全く廃れていた貨幣の価値を大勢の人々が信用するの难道か疑問である。

ではどうして、当時の日本人々は宋銭を信用したのだろうか？

「末法思想」が貨幣経済を生んだ

ここで注目したいのが、そもそも宋銭が日本に輸入され始めた経緯である。

当時、写経をした紙や巻物を入れる「経筒」という筒があった。最近の調査によると、経筒の素

平清盛とお金 ￥連載エッセイ 会計士のやさしいお金のお話

第4回

材である銅の産地が1150年ころを境に国内から中国華南地方に切り替わっていたと推定できることが分かった。ところがこの時代、宋は銅の輸出を禁止していたという——もう察しがついた方もいるだろう。銅不足に陥った日本は、銅そのものを輸入する代わりに銅製の宋銭を大量輸入し、溶かして銅材として使用し始めたのだ。なお、その百年後にできた鎌倉大仏の材料も宋銭だといわれている。

そして、「この大量の宋銭を、日本で通貨として使用できないか？」と最初に目をつけた人物こそ、平清盛である。その最大の目的は、権力の象徴である通貨発行権を手に入れることである。

貨幣が廃れて久しい当時の日本でも、宋銭を人々に通貨として信用させ、流通させることは可能だ、と清盛は判断した。その根拠は「仮に通貨として使えなくても仏具になる」という独特の利用価値であった。宋銭を数百枚集めれば、経筒ができる量になったのだ。

当時は、末法思想の真つただ中。西方極楽浄土への憧れは、貴族・庶民間わず大変なものがあった。その中で宋銭は「浄土に導く仏具のカケラ」として使われていたため、実際の銅の素材価値以上に、信仰物としての信用が与えられていたのだ。「外国貨幣」であるにも拘わらず、宋銭が通貨として普及した背景には、このような日本人の信仰心が反映されていたのである。

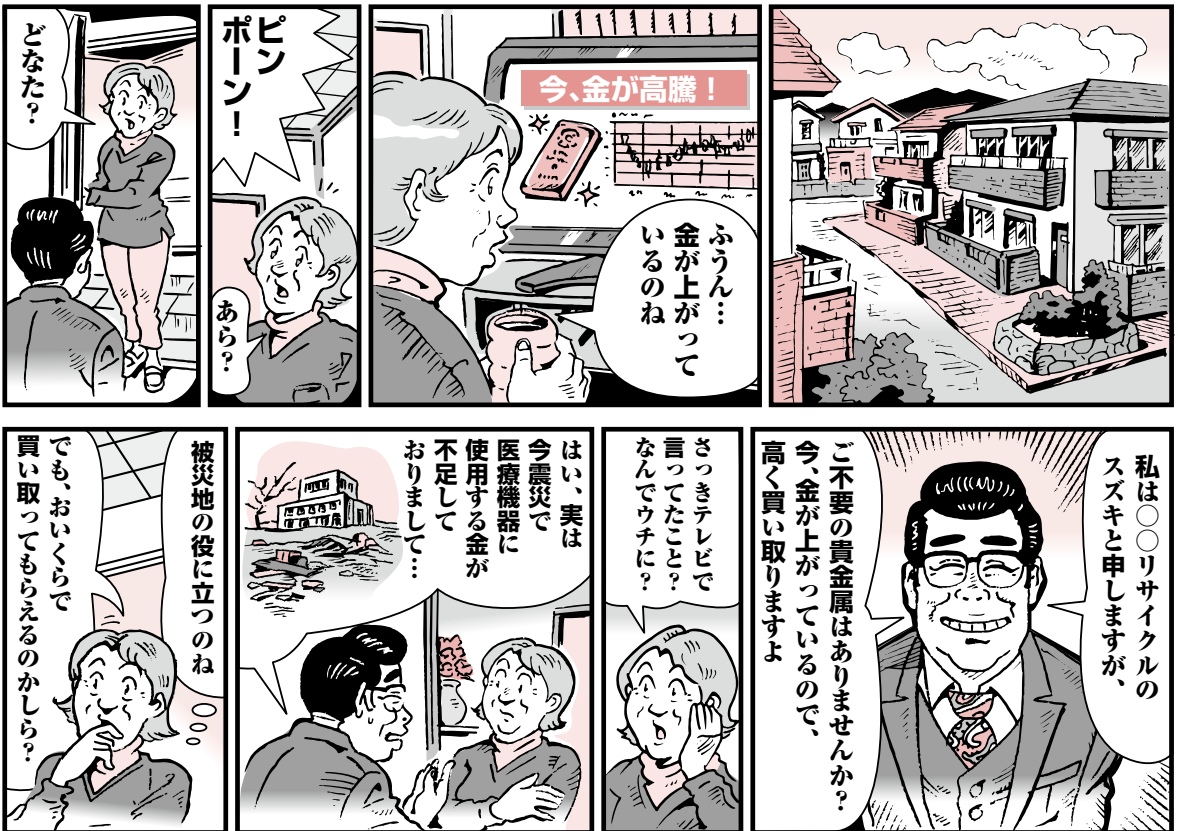
わたしは ダマサレナイ!!

第16話 貴金属などの訪問押し買い詐欺

●監修 中谷 薫 (なかに・かおる)

横浜市消費生活総合センター／消費生活専門相談員

このコーナーで紹介するまんがは、実際に起きた事件をもとに、その「だましのシーン」を再現したものです。
なぜだまされてしまうのか？
ここで再現する巧みな策略に、その秘密が隠されています。
「私だけは大丈夫！」
なんて甘く考えてはいませんか？
実はそう考える人こそ被害に遭いやすいのです。



金の高騰を背景に貴金属などの悪質な訪問押し買いの被害が急増

現在、世界的に金の価格が高騰していることなどを背景に、相場などの知識が少ない人、特に高齢者に対しての悪質な訪問押し買い、詐欺が急増しています。これまでは強引にモノや権利、サービスなど、二セモノを高額で売りつける押し売りのような詐欺が多かったのですが、今回は相手に売りつけるのではなく、貴金属などを相場水準とかけ離れた低い価格で強引に買い取って損害を与える詐欺です。

ポイント

買い取り業者が不意打ち的に勧誘してくる

貴金属の押し買い詐欺は、在宅中の高齢者を突然訪問し、「金の相場が上がっている」、「最近では「東日本大震災などによって、金を材料とする医療機器が不足している」などといった、お年寄りが持っている貴金属やアクセサリの高額買い取りを持ちかけることから始まります。この詐欺では不意打ち的に貴金属の売却を勧められるため、被害者は価格を冷静に考えることができないままトラブルが発生しています。

お年寄りにはそれなりに貴金属を持っている場合が多く、しかも今では使わなくなったものも多いようです。また自分の貴金属類が「少しでも震災の役に立つなら」という思いに駆られ、被害に遭いやすくなるのです。

実際の被害としては、貴金属数点から多いと15〜20点くらいを買い取られます。場合によっては、その場で、鑑定士と呼ばれる別の人を呼び出し鑑定するフリをします。はじめは「高く買い取る」と言いながら、相



手に知識のないことを見越し、実際の相場よりかなり安く買い叩きます。ずいぶんと安いのではないかと被害者が売却するか迷っていると、その場に居座り、「早くしろ」と強引にすべてを買い取って行ってしまうという「押し売り」ではなく「押し買い」をするのです。

ポイント2

許可業者が必ず確認。

あやしければ個人情報渡さない

古物の売買は、古物営業法により、都道府県公安委員会の許可が必要です。また、行商を行う際は許可証の携帯が必要です。買い取りに来た業者が許可業者かどうかを必ずチェックしましょう。

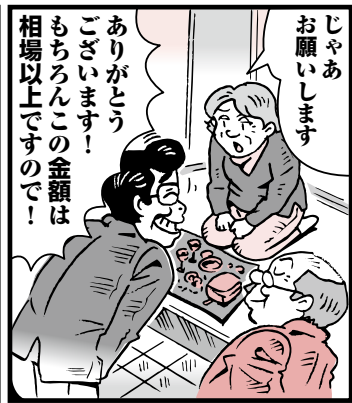
また、古物営業法では、買い手は売り手の名前、住所などを確認しなければいけないことになっていますが、相手が許可業者でもないのに、健康保険証など自分の個人情報を教える必要は全くありません。相手が許可業者かどうか必ず確認してください。

こうした悪質業者の手口で特徴的なのは、具体的な証拠を何一つ残さないことです。契約書を交わさないケースが多いことや、もつともらしく鑑定するふりをしながら実際は重さを量ることすらせず、見積もりも出しません。契約書を交わしたとしても、あらかじめ「解約はしません」という確認書を書かせるケースも多いです。こうした確認書が出てきたら怪しいと思いますよ。

ポイント3

被害に遭ってから取り返すことは難しく、クリーニングオフも使えない

被害に遭った品を取り返すことは非常に



その晩、夕食で



この物語はフィクションです

【詳しい情報や相談】
● 全国の消費生活センター
<http://www.kokusen.go.jp/map/index.html>
● 消費者庁 貴金属の訪問買取りに関する研究会
中間取りまとめ
http://www.caa.go.jp/trade/pdf/11209kokuhyou_1.pdf
● 国民生活センター 報道発表
http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20101221_2.pdf

難しいのが現状です。こういった詐欺の場合、前述のとおり本来必要となる契約書を取り交わすことは少なく、解約を申し出ても「解約をしない」という確認書をたてに解約を拒否したり、そうした確認書を書いていなくても、「もう別の業者に転売した」「もう溶かした」などと言って売り渡した貴金属を返してもらえません。さらに、業者の連絡先が分からないこともあります。そもそも業者と連絡が取れなければ解決は困難です。

この詐欺は被害者である消費者側が「売り手」になってしまったために特定商取引法のクーリングオフの適用がありません(2012年3月時点)。現在、訪問買い取りの場合もクーリングオフなどが使えるようにする特定商取引法改正の動きがありますが、まず自分自身が気をつけることが重要です。

また、マンガにあるように町全体が被害に遭うケースもみられていますので、普段から地域でのコミュニケーションをとることも自衛手段といえるでしょう。

老後に備える

連載 第3回

老後をイキイキ過ごす

リタイア後の生活をイメージしましょう

みなさんは老後をどのように過ごしていこうとお考えでしょうか。一日の大半を勤務に費やしていた日々から、すべての時間を自分で管理できる日々が待っています。収入こそ少なくなることが多いけれど、これまで忙しくなかなかできなかった趣味に打ち込んだり、地域活動に参加するなど、新しく始めたいことがいろいろ思い浮かぶ方も多いと思います。一方で、「毎日が日曜日」のような生活に、どう過ごしていけばいいかわからないまま一日を送ってしまうのではないかな不安

老後とはいついつから始まるのでしょうか。
仕事から引退したとき？
それとも年金を受給するときからでしょうか？
老後に対するイメージは人それぞれですが、いずれ誰にもやってくる老後の生活。
それが遠い未来の人も、近い将来の人も、身近なテーマとして考えてみませんか。
今回は、イキイキとした生活を送るために、必要なことについて考えてみましょう。

7:00	起床・朝食	起床
8:00	出勤	
9:00	出社	?
17:00	退社	
18:00	帰宅・夕食	夕食
23:00	就寝	就寝

方方もいらつしやるかもしれません。老後をどのように充実させるかをあらかじめイメージしておくことはとても大切です。暮らしのリズムを上手に切り替えるために、まず自分なりの「生

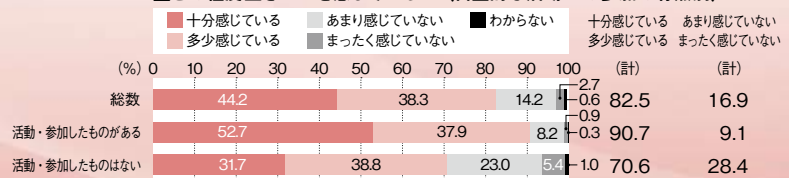
活時間割」を考えてみましょう。日々の生活にメリハリをつけるための目標を掲げることも良いかもしれません。体力作りをかねて、朝のラジオ体操や散歩などを始めるのはいかがでしょうか。
地域活動に加わる
新しい友人作りを始める

会社勤めの時はなかなか地域活動に参加できなかった人は、積極的に地域活動などに参加することをお勧めします。加齢による体力の衰えや疾病など、自分の身体のことを身近な人々に相談できるなど、喜びや悩みを共有できる環境作りがとても大切です。

平成21年度の「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(内閣府)によると、地域活動などに参加した経験のある人のほうが、参加経験のない人より生きがいを感じる割合が大幅に高いという結果が出ています。

市区町村の役所・役場からの広報誌には、さまざまな教室やパソコンの講習会などの情報が掲載されていますし、町内会や集合住宅などでもさまざまな活動が展開されていますので、興味を持ったものに参加してみましょう。いきなりサークル活動などに参加するの

■どの程度生きがいを感じているか(自主的な活動への参加の有無別)



平成21年12月「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」内閣府

が億劫な方は、地元の社会福祉協議会などが募集しているボランティアに参加してみてもよいでしょう。会社勤めなどで培ったノウハウやネットワークを活かして、こうした活動に参加していくことは、新たな自分を発見するチャンスでもあります。

地域での仲間づくりで大切なのは、会社での役職や肩書きにとらわれないことです。従来の上下関係とは違う人間関係のスタートなので、地域活動やボランティア活動に参加しようという意向は年々高まっています。社会に参加し、自分が役に立っているという意識が、張りのある毎日を送るエネルギーになるといえるでしょう。

委員団体の活動紹介


SHINKIN 信用金庫

 一般社団法人
全国信用金庫協会

東日本大震災で被災された方々のために、 信用金庫業界が一丸となつて各種取組を実施 地域の「絆」を大切にし「つなぐ力」を発揮

信用金庫は、地域で暮らす人たちが、

地域社会の未来のために自分たちの金融機関を創りたいという志から生まれた、相互扶助、非営利を经营理念とする協同組織金融機関です。全国信用金庫協会は、全国271の信用金庫と信金中央金庫を会員とし、信用金庫業界の発展や、中小企業・地域の方々との「絆」を大切にし「つなぐ力」を発揮するための、さまざまな活動を行なっています。

東日本大震災から1年が過ぎましたが、改めて、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。被災地域、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。被災地域の信用金庫は、震災発生直後から自らも被災者でありながら金融機能、決済システムの維持はもとより、被災された方々への生活支援も含め、日頃の「Face to Face」の関係を活かし、地域の運命共同体の中核として、その役

割を懸命に果たしてきました。

こうした事態の中で、信用金庫業界を挙げて、被害にあわれた方々、被災地域の信用金庫への支援活動を実施しています。震災直後には、ルートや手段を検討し緊急支援物資を配送するとともに、避難先でもお客さまへの預金代理払いが可能となるよう態勢を整備しました。このほか、全国7500店舗を超える信用金庫窓口での義援金のお取扱いは、多くの方からの善意により50億円を超える規模となりました。信用金庫業界役職員（12万人）を対象とする2千円募金の県・市町村への寄贈、「しんきん地域応援キャンペーン」のオープン懸賞応募件数に応じた「あしなが育英会」への寄付なども実施しています。また、全国の信用金庫職員がボランティア活動に参加し瓦礫撤去や家具の運び出しに携わったり、特産品紹介、観光客誘致に協力するなど、被災地域

の実情に応じて、信用金庫の総合力を発揮しながら、様々な活動に取り組んでいます。

信用金庫業界は、今後とも地域の皆さま、中小企業のために全力を尽くしてまいりますので、ご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。



物資運搬、瓦礫の撤去作業、炊き出しなど、さまざまな活動が行われた。現在でも、個別信用金庫からは継続してボランティアが派遣されている。



社団法人
全国労働金庫協会

「生活応援運動」を通じ、 社会人となる前に必要な消費者教育を 高校生・大学生を対象に実施しています。

〈ろうきん〉は2007年から「生活応援運動」を統一的な取組みとして展開しています。「生活応援運動」とは、『勤労者の生活のうち「お金」にまつわる諸問題の解決のために、勤労者のための金融機関である〈ろうきん〉が、会員労働組合との連携のもとで、情報を提供し、相談に乗り、具体的な提案・アドバイスを行う運動』です。

「生活応援運動」の柱は「生活改善」「生活防衛」「生活設計」の3つです。この「生活防衛」の具体的な取組みとして、マネートラブルや多重債務に陥らないための啓発活動・消費者教育を、会員労働組合や一般勤労者、さらに社会人となる前の高校生・大学生を対象に実施しています。

全国の〈ろうきん〉では高校生・大学生を対象としたセミナーを、2006年度から現在までに728回開催し、8万4500名を超える学生の参加が

ありました。また、当会も2008年から日本大学商学部「金融サービス・ビジネス」講座や金融広報中央委員会主催の「金融教育フェスティバル」に講師を派遣しています。

こうしたセミナー等で活用するツールが「マネートラブルにかつ!」という冊子です。様々なお金にまつわるトラブルの事例を漫画でわかりやすく紹介し、その解決方法を記載しています。この冊子は、2005年に作成して以来、合計150万部を発行しました。最近では、新潟県(上越市・長岡市・糸魚川市・妙高市・燕市・三条市・小千谷市等)や静岡県(焼津市・南伊豆町等)で、市の予算でこの冊子を増刷し全戸配布したり、地域の学校での消費者教育の教材として活用される等幅広く活用されています。

2012年は国連が定めた「国際協同組合年」です。これは協同組合がも

たらす社会経済的発展への貢献が認められた証でもあり、労金業態も積極的に参画し、社会的役割を發揮していきます。その取組みのひとつがこれからの社会を担っていく学生等の若年層への金融教育の実施です。

営利を目的としない協同組織の福祉金融機関〈ろうきん〉だからこそできる働く人の目線に立った「生活応援運動」にこれからは取組んでまいります。



<http://all.rokin.or.jp/>

いつも口になっている素材で何気ないあの郷土料理は、どの地方で生まれた料理法かご存知ですか？
全国各地それぞれの土地によって別の顔を見せる料理の数々を紹介するのが「たべもの百面相」です。

寿司

【其の四】
すし

江戸前寿司

1800年代初頭の文化・文政時代のころに江戸前の握り寿司は誕生したといわれています。この背景には、酢やしょう油の醸造技術がこの時代に向上し、大量生産が可能になったことが挙げられます。「江戸前」と呼ばれるのは、江戸湾で獲れた新鮮なコハダやエビ、アナゴや白魚などをネタとして使ったことから。その素材を、煮しめたり、酢でしめたりするなどの工夫を凝らすといった「仕事」をしているのが江戸前寿司です。この寿司を屋台でサッと食べるスタイルは、ファーストフードの元祖といつてよいかもしれません。



東京
都

片手でつまめる
元祖ファーストフード

ピンクの鱈がいちめんじ
敷かれています

富山
県



ます
鱈寿司

二百数十年前から受け継がれ、八代將軍吉宗にも献上されその舌をうならせたという富山の鱈寿司。昔は熟れ寿司だったようですが、現在では竹の円形器（曲げ物）に寿司飯を詰めて鱈の切り身をきれいに並べた後で押し寿司にしたものです。押し寿司は全般に握り寿司より保存性が高く、寿司を包んでいる笹の葉は香りがよいだけでなく、殺菌作用もあり、時間がたっても美味しく食べられることが特徴です。現在は駅や空港のお土産としても定番となっています。

日本が誇る寿司は、今ではヘルシーフードとして世界的に広がっています。そのルーツは、発酵食品として保存を目的とした「熟れ寿司」という説もあるようです。その後、握り寿司やちらし寿司、いなり寿司や巻き物など寿司料理は地域ごとにバリエーションを増やしていったと考えられています。今回は郷土を代表する数々の寿司料理の中からいくつかをご紹介します。

海なし県の
知恵が輝ける
寿司料理

奈良県



柿の葉寿司

奈良の吉野地方で7月の夏祭りに欠かせないごちそうが柿の葉寿司です。この寿司料理は、熊野灘で獲れた塩サバを乗せた握り寿司を、6月ころに取ったやわらかな柿の葉で包んで押して作ります。海が身近でない吉野の里では魚も米も貴重であり、柿の葉寿司は何よりのごちそう。お祭りやお祝いごとのほか、お客さまへのもてなし料理として発展したようです。また柿の葉には防腐効果があるとされ、湿度の高まりやすい盆地である奈良県では特に保存性が必要とされました。

ばら寿司

ばら寿司は岡山県の行事食でありごちそうです。ばら寿司のほかにも「まつり寿司」「ちらし寿司」の呼び名で親しまれ、お祝いや来客の際には欠かせない寿司料理となっています。その昔、岡山藩主が出した節約令により、庶民は一汁一菜を強いられましたが、桶の下に敷いた寿司飯の下に、味をつけた新鮮な魚や野菜を隠し、贅沢をしない体を装うなど、窮余の策として考案されたと伝えられています。庶民の知恵の郷土料理が現在に受け継がれているのです。

花が散りばめられたような ごちそう



岡山県

お酢を使わない 珍しい寿司料理

酒寿司



鹿児島県

薩摩地方に伝わる酒寿司は、新鮮な魚介類と山の幸を使い、火入していない生の地酒を使って発酵させる押し寿司のひとつ。もともと武家に残された伝統料理ですが、その由来は島津の殿さまの宴会で残った酒とご飯と一緒にしておいたところ翌日発酵し、豊かな芳香を漂わせ美味しそだったという説や、女性が男性の前でお酒を飲みにくいいため、女性が酒寿司を考案したなど、諸説あるようです。いらっしゃるお客さまを思いながら、新鮮な魚介類を探し、山の幸を採取し、前日から仕込むおもてなしの寿司料理、それが酒寿司です。

海に囲まれ新鮮な魚介が豊富に獲れる日本で、各地で独自に発展した寿司料理。調べてみるとそのほとんどが、お祭りやお祝い、来客時の特別な料理であることがわかります。それぞれの地域で獲れる海の幸、山の幸、そして独自の料理法に関心を寄せながら、さまざまに酒寿司料理を楽しんでみてはいかがでしょうか。

「お魚料理の人気ナンバーワン!?」寿司の実力

- 脳の活性化、成人病予防など（サバ、アジなどの青魚）
- 骨粗しょう症予防、疲労回復ほか（マグロ、カツオなどの赤身魚）
- 高血圧、動脈硬化予防ほか（エビ、ホタテ、イカなどの甲殻類、貝類）
- 食欲増進、高血圧予防ほか（お酢）

などに効果があるといわれています ※摂りすぎには注意しましょう

ライフ&マネープラン

【退職金にかかる税金】

このコーナーでは、転職、退職など人生の転機で役に立つ、生活設計におけるマネープランをご紹介します。忙しい社会人は、日々の仕事を優先しがちですが、将来を見据えたマネープランは仕事と同じくらい大切です。今回は退職金にかかる税金の基礎知識を身につけ、いざ訪れる「その日」に備えましょう。

退職金と納める税について

勤めた会社を退職する際に支払われる退職金は、長年にわたる会社への貢献の対価、功労であり、退職後の生活に役立てるべき大切なお金です。給与所得に税金がかかるように、この退職金にも税金はかかります。退職金にかかる税金は所得税と住民税です。課税の対象となる退職金は「退職所得」と呼ばれます。

ちなみに退職金とは

●退職に伴って会社から受領する退職金や一時恩給

●社会保険制度などにより退職に伴って支給される一時金

●適格退職年金契約に基づいて生命保険

会社や信託会社から受領する退職一時金などをいいます。

この退職所得は、原則として他の所得と分離して税額を計算します（分離課税）。また、原則として源泉徴収により納税は終了します。納税の手続きは会社が処理してくれるため、「退職所得の受給に関する申告書」を期日までに会社（退職手当等の支払者）に提出しておけば、自分で確定申告をする必要がありません。ただし、この申告書の提出がない場合は、退職金額にかかわらず20%の税率で源泉徴収されます。この場合、退職所得の受給者本人が確定申告によって精算する必要がありますので、ご注意ください。

退職金にかかる税について

■課税対象となる退職所得の計算方法
課税対象となる退職所得は、次のように計算します。

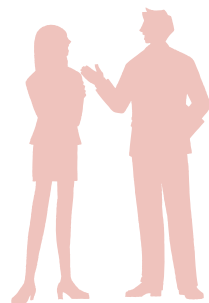
退職所得（課税対象金額）

＝

$(\text{退職金} - \text{退職所得控除額}) \times 2 \text{ 分の } 1$

※平成25年1月1日から計算方法が変更になります。

※適格退職年金契約に基づいて支給される退職一時金などについて、従業員自身が負担した保険料又は掛金がある場合には、その支給額から従業員が負担した保険料又は掛金の金額を差し引いた残額を退職所得の収入金額とします。



退職所得控除額は次の表の通りです。

勤続年数 (= A)	退職所得控除額
20年以下	40万円×A (80万に満たない場合には、80万円)
20年超	800万円+70万円×(A-20年)

例えば、勤続年数が8年4カ月の人の場合の退職所得控除額は、端数の4カ月は1年に切上げとなり、勤続年数は9年と計算します。控除額は、40万円×9年=360万円となります。勤続年数が25年の人の場合は、800万円+70万円×(勤続年数-20年)=800万円+70万円×5年=1150万円です。例えば、勤続年数25年の人が受け取った退職金が1500万円だったなら課税される退職所得は(1500万円-1150万円)×1/2=175万円となります。

なお、前年以前に退職所得を受け取ったことがあるとき、または同一年中に2カ所以上から退職金を受け取るときなどは、控除額の計算が異なることがあります。

また、障がい者になったことが直接の原因で退職した場合の退職所得控除額は、上記の方法により計算した額に、

100万円を加えた金額となります。

■税額の計算

所得税の税率は、左表を参照すると分かりやすいです。

所得税の速算表		
課税される所得金額	税率(%)	控除額
195万以下	5	-
195万円～330万円以下	10	97,500円
330万円～695万円以下	20	427,500円
695万円～900万円以下	23	636,000円
900万円～1,800万円以下	33	1,536,000円
1,800万円超	40	2,796,000円

※「課税される所得金額」×「税率」-「控除額」が税額となります。

情報収集にあたって注意したいこと

人生の中で退職金をもらうことはそう何度も経験することではありません。そのため、予備知識を得ていても、実際はいろいろ分からないことも出てくるものです。

そういった場合は、国税庁や都道府県の各労働局、各自治体の賃金・退職金制度相談窓口など、公共の相談窓口を活用しましょう。専門の相談員(社会保険労務士など)に基本的に無料で相談することができます。

また、銀行や信託銀行、証券会社、生保会社などの金融機関に相談することも十分に考えられますが、その際は退職金の投資や運用についてさまざまな提案があることを見越して相談する必要があるでしょう。

インターネットでも、退職金についてのさまざまな情報を得ることができます。国税庁をはじめ、有益なホームページがたくさんあります。一方で悪質な業者が、銀行や公的機関をよそおったサイトを開設している場合がある

ので、うっかりアクセスして個人情報が出てしまわないように、十分に注意しましょう。



住民税の計算

退職所得の 金額	×	税率		=	税額		
		市町村民税 (特別区民税)	道府県民税 (都民税)		市町村民 税額 (特別区民 税額)	道府県民 税額 (都民税額)	
		6%	4%		(A)	(B)	
税額		控除額		特別徴収すべき税額			
市町村民 税額 (特別区民 税額) (A)	道府県民 税額 (都民税額) (B)	—	(A) × 10% (C)	(B) × 10% (D)	=	市町村民 税額 (特別区民 税額) (A) − (C)	道府県民 税額 (都民税額) (B) − (D)

※平成25年1月1日から計算方法が変更になります。

また、住民税額は、次のとおりの計算となり、「特別徴収すべき税額」がそれぞれ徴収されます。

参考資料:「国税庁」(HP)「総務省」(HP)「東京都主税局」(HP) など

大学における金融教育の実践授業

～ 仮想取引体験授業の有効性と課題～

金融教育の現場レポート

「金融教育」は、社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。

この「コーナー」では、金融教育の授業がどのように進められているか、

教育現場に立つ先生や、授業を受ける生徒の姿をレポートします。

今回は、上智大学経済学部の川西諭教授がオリジナル教材を作成し、同大学で実践している金融教育の取り組みについて紹介します。

大学における ファイナンス教育の試行

「世の中のいたるところでバブルとその崩壊が繰り返されているのは、市場参加者の相場観に問題が

あるからではないか」——上智大学経済学部で教鞭をとる川西教授は、そうした問題意識を投げかけていくことも金融教育の役割であるはずだと言います。川西教授は、10数年前より、「扱う問題が学生

にとって『身近な問題』ではない」「完璧な金融市場」の説明に終始してしまっている」という2点を大学におけるファイナンス教育の問題点と考え、金融市場における「正しい判断を知ること」と同時に「自分がどういう過ちを犯す危険があるかを学ぶこと」を自身の授業の目標にしてみました。

そこで、アメリカで成果を上げている「仮想取引体験授業」の導入を決定。上智大学から教育イノベーション・プログラムという財政的な支援を受け、大学院生と教材の試行テストを行いながら、日本独自の内容を折り込み、上智大生の知識や能力に合わせた教材を作成していきました。

仮想取引体験で 授業はどう変わったか

仮想取引体験とは、学生たちに



東京都
上智大学経済学部
川西諭教授

■仮想取引体験授業の講義概要
(2010年秋学期 対象：2年生)

ALS(アクティブ・ラーニング・セミナー)
～仮想取引実験で学ぶ経済の仕組みと経済現象～

全15回

1	イントロダクション：アイス・ブレイキング
2	魚市場の実験
3	魚市場の実験に関するディスカッション
4	中古車市場の実験
5	中古車市場の実験に関するディスカッション
6	お金の貸し借りの実験
7	お金の貸し借りの実験に関するディスカッション
8	オークションの実験
9	寄付に関する実験
10	寄付に関する実験に関するディスカッション
11	株式市場の実験
12	株式市場の実験に関するディスカッション
13	チームワークの実験
14	チームワークの実験に関するディスカッション
15	授業全体に関するディスカッション

お金の借り手や貸し手、あるいは株式市場の売り手や買い手の役割を与えて、仮想的に取引してもらうものです。上手く取引をすれば、利益や得点が高くなるようなルールになっており、学生たちは「ゲーム感覚」でファイナンスの知識を学びます。魚市場実験、中古車市場実験、お金の貸し借り実験、オークション実験などと段階を追って難易度が高くなるよう構成されており、川西教授は確かな手応えとして、実験授業の方が学生たちの学習態度が積極的になり、教室の雰

囲気も変わったと感じたそうです。「ゲームには明確で分かりやすい目標があり、目標を達成すると褒められたり自己肯定感を感じたりすることができます。また、失敗しても何度でも再チャレンジできます。このように、熱中できる要素がふんだんにあるわけです」と、川西教授は学生たちが夢中になる理由を分析しています。仮想取引には利益や得点という明確な目標がありますが、どのよう

に取引をするべきかについては川西教授から一切指示を出しません。学生たちが自由に考えて取引を決め、友人と利益や得点を競うなどの楽しみを見つけます。他の学生と交渉して取引する刺激的な経験を通じて、仮想取引を「自分の問題」として真剣に考え、答えを探そうと夢中になってくれるのだそうです。

学生たちは「これまで学んできた経済理論が実験を通して実体験できた」と実感しています。川西教授は理論+実践によって、学生の理解の深化に大きな成果を残すことができると思います。

仮想取引体験授業の課題

一方で川西教授は授業を行う上での課題として、「その体験から何を学べるべきか」という議論をしっかりと行うことが重要だと言います。そのため、『決して面白いだけの授業で終わらないこと』『学生の知識や能力に合った、難し過ぎず簡単過ぎない課題を準備すること』『学生に間違った教訓を学ばせないこと』を指導ポイントとして、実験をやった次の回の授業では、必ず解説やデイスカッションを取り入れています。上智大学の学生には上智大学の学生のレベルに合った教材、違う学校ではその学校に相応しい教材を準備することが不可欠だと川西教授は言います。

仮想取引体験で、川西教授は失敗しそうな学生にも一切アドバイスを与えることはありません。代わりに、学生には答えを見つけないという過程では「失敗してもいい」という認識を持たせ、積極的に試行錯誤できるようにしています。「失敗しても、そこから自分の悪い癖や間違った認識に気づき、それを正すことができれば、

将来、実際の金融取引での失敗を避けることができるようになるでしょう」と川西教授は話します。

しかし、なかには、「ゲーム感覚」「リセットできる」ということで、学生が必要以上のリスクを冒してチャレンジするなど、必ずしも狙った通りの指導結果を得られないこともあると言います。「現実なら手を出さない商品でも、ゲームだから」と、大胆に挑戦するので、それでは明らかに「現実とのギャップ」が生まれてしまいます。学生たちがいかに想像力を働かせて、現実を正しく理解できるかが今後の課題です」。

上智大学における金融教育と学生たち

川西教授が今、教える学生たちと接していて感じるのは、「人前で失敗したくない」という意識の強さだと言います。そのため、仮想取引体験授業では、まずその意識を変えていくために、最初の導入時に「間違うのが当たり前」と思えるような、頭を使う簡単なゲームを何度も行い、失敗して負ける経験を重ねることで、教室の雰囲気を変えます。「この授業では失敗してもいい」「この仲間内なら

恥ずかしくない」という意識を持たせていく段階が、どうしても必要とのこと。

前述の失敗を恐れず大胆なリスクを犯すタイプの一部の学生とは正反対の、現実的で安定志向の学生が非常に多いと川西教授は感じています。

「現代社会の世相を反映しているのだと思いますが、今の学生たちには将来への不安感と人生で冒險したくない意識が強く、就職で失敗して負け組になりたくないから、就職で不利になると言われている海外留学はしたくないと考え



■「魚市場の実験」受講学生の感想

いままで想像するしかなかった市場価格の変動を実際に体験できたというのが新鮮で面白かったです。

いままでは経済学の計算問題において需要関数や供給関数の多くは初めから所与のものであった。需要関数や供給関数についてあいまいなイメージしか持っていなかったで、ディスカッションで“具体的にこんな風に需要関数や供給関数が作られていくんだ!”と少し感動した(同時に自分が勉強不足なことに気付いた)。

教授の話を聞いてノートに書くというだけの受け身的な授業ではなく、実験を通して能動的に、アクティブに勉強することで経済学が身につくと思う。

実験について考えていくとき、1人だと考え方が偏りがちになり間違っただけの考え方をしてもそれに気付かないが、ディスカッション形式だと自分の考えでは思いつかなかったこともでてくるし納得しながら進められたのですごく楽しかった。

魚の取引実験で自分が売り手と買い手になることで、どんな価格にすれば買い手が買うのかということを実際に考えながら行い、とても勉強になりました。このように実験する授業は初めてだったので楽しかったです。実験してみると経済についてよりわかりやすく学べる気がします。

今までの経済の勉強は紙と向き合ってきたが、実際に実験を通じて経済の理論を確かめたことで、経済を勉強することがいかに面白いのかを改めて感じました。特に価格が下がることが、人間の心理によって影響をされる場合もあるということに驚きました。

小さな経済モデルの実験においても豊作貧乏という現象が起こり、また、そのような現象も以前に習った需要曲線・供給曲線の関係で説明がつくことが特に印象に残った。

市場について、売り手買い手それぞれの行動原則について、この実験を通じてなんとなくわかったことを、その後のディスカッションで細かく分析し、グラフとして構築していった。まずなんとなく自分の感覚としてつかんだものを、理論に当てはめて考えていくという方法は、なかなか通常の授業ではできないことで、とても新鮮だった。

結果と理論予想が異なる場合があった。このようにして、企業がうまくいかないこともあるんだろうなあと思った。

紙の上で学んだ「需要曲線」「供給曲線」「均衡価格」「カルテル」「豊作貧乏」などといった理論や現象を実際にこの身で体験した時、今まで頭の中にあるだけだった知識が、じわりと脳に染みこんでいくのを感じた。

とても面白い実験でした。セッションごとに売り手や買い手の行動がそれぞれ変わって、考えながら動かないといけないので、すごく頭を使ったように感じました。自然と周りの人と交流することが出来て良かったです。



る傾向があります。アルバイトで稼いだお金も将来のために貯金しているのだと言うのです。本当はもっといろいろなことに挑戦をして、自分自身にどんどん投資していく大切な時期なのですから残念です」と話します。

経済学を学んだ教え子を、社

会で役に立つ人材に育てたいと願う一方で、それは大学教育だけでは困難ではないかと感じているという川西教授。とはいえ、今後教材に改良を重ね、ますます教育効果の高い仮想取引体験授業を展開していこうと情熱を注いでいます。

大学における金融教育の実践授業

～仮想取引体験授業の有効性と課題～

東京都

上智大学経済学部 川西諭教授



【第4回】

駕籠のお代はいくらだった？ 江戸から昭和の交通料金

江戸から明治の交通手段、 駕籠と人力車

飛行機はおろか最近では宇宙への旅も可能な時代になりましたが、つい150年くらい前までは、人や馬などの力で動かす交通手段が主流でした。江戸や明治のころ、一番身近にあった乗り物は、時代劇でもおなじみの駕籠と、今でも浅草などの観光地で見かける人力車といえるでしょう。

駕籠は庶民から武士にいたるまで広く利用されてきました。町人が乗った町駕籠の中で、一番格式が高い駕籠が「法仙寺駕籠」、ついで「あんぼつ」、最もポピュラーだったのが「四ツ手駕籠」です。駕籠を頼むときは、神社仏閣の門前や盛り場で客待ちをした「辻駕籠」か、駕籠屋を構え、少々料金が高いがサービスのよい「宿駕籠」を利用しました。

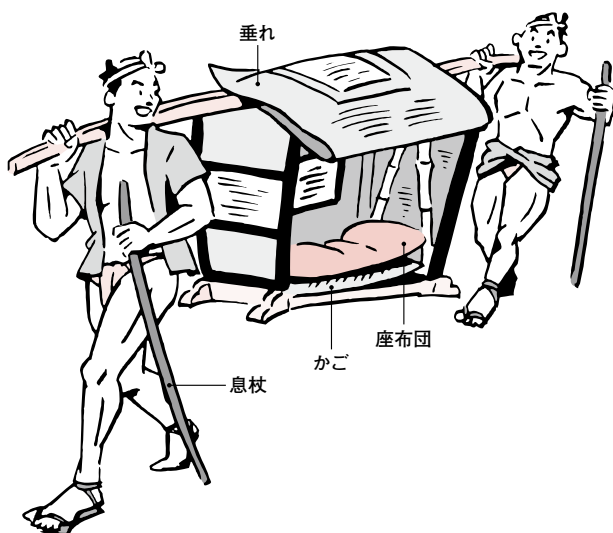
この駕籠の料金はどれくらいだったのでしょうか。

う。時代にも異なりますが、天保年間（1830～43年）に日本橋から吉原まで、金二朱、いまの金額では1万円程度（注1）だったようです。しかし急がせると2倍程度まで跳ね上がりました。また幕末には相場が高騰し、吉原から麹町までで錢五貫文、いまの金額では約9万円（注2）もしたという記録もあります。このようにかなりの高額になる乗り物であったことから、庶民が使うといっても今のタクシーのように気軽に乗るものではなく、よほど特別なときに利用したようです。

ちなみに江戸から大阪まですべて駕籠を使った場合、11円96銭（明治8年）かかったという記録があります。いまのお金に換算すると約8万円くらい（注2）で、駕籠代のほか、宿泊費や食事代、それに駕籠かきへの心づけもある

ので、その費用は大きなものとなります。

さて、明治初期に登場した人力車は、日本で発明された乗り物です。その料金は、場所や年代によりさまざまですが、明治6年に定められた「人力車定則」によると、一人乗の場合、20町（1町は約109m）までは一町につき2厘5毛、21町以上1里（1里は36町、約4km）までは6銭2厘5毛、一里以上は里につき6銭2厘5毛となっています。4kmで1000円前後（注2）といったところでしょうか。人力車はこのように運賃も安く、駕籠よりもスピードが速かったため、またたく間に普及しました。幕末に東京で二万台あったといわれる駕籠は人力車の登場により姿を消します。



（注1）1両（＝4分＝16朱）＝約80,000円、1文＝約12円として計算。江戸時代後期と現在のお米の値段などを比較して換算していますが、何を基準にするかによって大きな差が出てくるため、あくまで目安としてお考えください。

（注2）明治時代初期と現在のお米の値段などを比較して換算していますが、何を基準にするかによって大きな差が出てくるため、あくまで目安としてお考えください。

その人力車も、自動車の発展とともにその役割を終え、現在は観光地で見られる程度ですが、インドなどアジアの各地では活躍中です。

自動車や電車、自動車の費用の移り変わり

では近代から現代の交通機関、自動車や電車、自動車などにかかる費用はどのように変化してきたのでしょうか。

旧国鉄の入場券を見ると、明治30年では2銭だったものが大正に入ると10銭と5倍になっています。その後しばらく据え置かれましたが、昭和21年以降毎年のように値上がりし、昭和41年には明治30年の10000倍の20円となります。

特急料金は明治末期の3円(400マイル、約644kmまで)から大正7年には4円(400マイルまで)、太平洋戦争中の昭和18-19年には距離に関係なく9円もしくは15円と上昇しています。昭和24年以降は、距離の細かい設定変更を繰り返すに伴い、料金も少しずつ上昇していきました。昭和39年に当時「夢の超特急」といわれた新幹線が開通し、東京-大阪間を約4時間で結びました(ひかりの場合)

さて最後は自らが運転する自動車の価格を見てみましょう。日本に初めて自動車が登場

するのは明治31年、国産のガソリン自動車が生産されたのは明治40年です。関東大震災をきっかけに自動車が増えていきますが当時は外国車が主流でした。日本の自動車メーカーが大量生産をスタートしたのは昭和10年で、この年の小型車(現・普通車)が16500円でした。戦後にはそれが16万円と約100倍となり、翌年、翌々年には倍、さらに倍と上昇し、昭和30年には80万円となりますが、こ

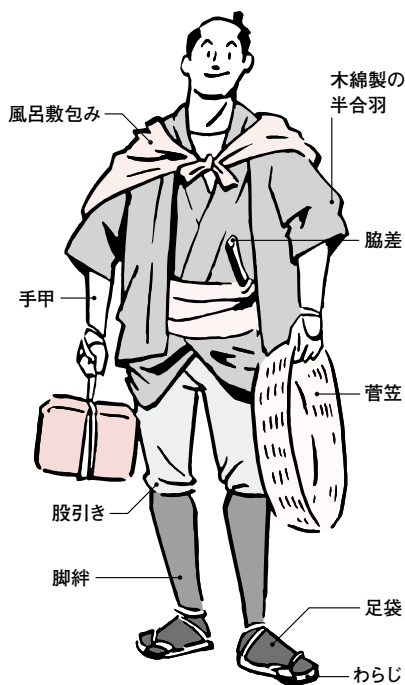
の後増減を繰り返して、昭和50年代には100万円程度に落ち着きました。交通機関の発明、発達により、海外旅行までもが当たり前となり、安く・早く・遠くへ行ける現代。昔の旅の苦労は今ではまったく考えられなくなっていました。今ではのんびりと普通電車で出かける旅や、散歩で遠出したりすることで、思わぬ発見があるかもしれませんね。

江戸時代の旅。そのメッカと楽しみ方

江戸時代の庶民の旅は、当初は寺社参拝が目的の信仰・巡礼の旅でした。とくに伊勢参りは一生に一度は行きたいものとされ、各地で講が結成されました。講とは互いに費用を積み立てて、毎年代参者を出して参詣させることをいいます。輪番などで代参者を選び、講を代表して護符をいただきみんなに配るといった仕組みで、小ささまざまな規模がありました。

この伊勢参りのほかにも、安産、学業成就、家内安全などを祈念した江の島詣、初代の市川団十郎が上演した「成田分身不動」にあやかった成田詣、ご来光を目指す富士詣、弥次喜多でも有名な善光寺詣、伊勢参りの後に足をのびした熊野詣、弘法大師を参詣する高野詣などさまざまな旅を楽しんでいたようです。最初は信仰を目的としたものも、時代が下るにつれて、物見遊山も大きな楽しみの一つとなっていくます。

さて伊勢参りでは一日約40～50kmを歩き、一カ月程度で往復しましたが、その旅行費用はお土産込みで4～5両、32～40万円くらい(注1)要したようです。また、旅では残してきた家族や友だちなどに連絡を取るために文(手紙)が使われましたが、それを運ぶ飛脚の料金は、寛延元年(1748年)の資料によると、江戸-大阪で書状を一通やりとりすると3分(6万円くらい(注1))もかかったようです。今のメールのやりとりを考えると、手紙ひとつでずいぶん高額ですね。だからこそ、大切なことに限定され、伝えようとする思いが強かったのでしょうか。



参考資料:「大江戸暮らし」PHP研究所、「値段の風俗史」朝日新聞社、「落語と江戸風俗」教育出版、「よここくnavi」(HP) など

都道府県金融広報委員会 事務局員の活動紹介

親子で楽しく 学ぶ金融教育！

富山県金融広報委員会
大里 祐子

富山県金融広報委員会では、学校、公民館などで、小学生と保護者を対象とした「親子マネー講座」を積極的に開催しています。

まず、私が「お金の役割とひみつ」をテーマに、「買い物をするときはほしいものと本当に必

要なものに分けてみるが大切！「お金は夢や希望をかなえるために正しい使い方をしよう」などをポイントに話します。ただ聞くばかりでは子どもなどが飽きるので、「お金に関するクイズ」を出題します。1億円の重さを当てる問題では、子どもたちに模擬券バックを実際に持ってもらいますが、みんな我先にと集まり、一番盛り上がります。

また、お札の偽造防止技術について、拡大鏡などを使って紹介して楽しく学んでもらえるように

心掛けています。

次に、アドバイザーが独自に作成した「おこづかいゲーム」に移ります。各種イベントを仮想体験しながら、自分で考え判断し、1カ月分のおこづかい帳をゲーム感覚でつけてもらいます。これは、子どもに自ら行動できる力を身につけ、計画性のあるお金の使い方を学んでもらうことを目的としています。

ある講座が終ったとき、私のもとに一人の子どもが走ってきて、「すごく面白かった」。ありが

とう！バイバイ」と笑顔で手を振ってくれました。このような場面に遭遇すると、この仕事をやっていてよかったと実感します。これからも一人でも多くの子どもたちに「お金の役割や大切さ」を楽しく伝えていくことが私の使命だと思っています。



「親子マネー講座」の様子

望まれる講座を 届けたい

三重県金融広報委員会
丸山 美枝子

「健康に良いこの商品が欲しい人〜」「ハーイ」会場に大きな声がこだまします。

実際にモノを売っているのではありません。高齢者対象の消費生活講座的一幕です。三重県金融広報委員会では、金融広報アド

バイザーの無料派遣を事業の中心として活動をしています。アドバイザーが行うロールプレイングでは、事務局員が悪質業者や被害者になって場を盛り上げます。和気あいあいとした雰囲気の中、悪質商法の手口と対処法に関して話が進んでいきます。

高齢者対象の講座は、消費生活だけでなく、相続、シニアの医療保険、年金など幅広いテーマで数多く開催しています。受講者の皆さんは、向学心を持って参加され、次はこんなお話が

聞きたい、こんな先生に聞きたいなど希望も寄せられます。要望を吸い上げ、望まれる講座を必要とされている方に届ける、これが事務局員の仕事だと思っています。

事務局員は営業マンにも事務員にもなります。講座を増やすため、金融教育に取り組んでいたため、県内どこへでも説明に参ります。アポを取って出かけますが、知名度の低さから悲しい思いをすることもあります。しかし、私たちの活動を知っていただく

チャンスとポジティブに捉えて頑張っています。子どもから高齢者まで、くらしに身近な金融の知識を身につけていただくために…。



「親子で学ぶおかね教室」の様子

金融広報アドバイザーとは、金融広報委員会からの委嘱を受け、各地において暮らしに身近な金融経済等に関する勉強会の講師を務めたり、生活設計の指導や金融・金銭教育などを行う金融広報活動の第一線指導者です。

金融広報 アドバイザーの 紹介

明るく楽しく前向きに！ 受講生に勇気と希望を与える 元氣印のアドバイザー

「生涯現役で。そのためには明るく楽しく前向きに」を自らのキャッチフレーズにしている横江光良さん。講演会や勉強会では受講者の方々に「希望と元氣、勇気を与える」ことを目標にしています。

* * * *

横江さんのテーマの中心はいつも「人生はこれから」。これは、「将来になりたい自分、やりたい仕事を見つけ、社会に役立ち喜ばれることで収入を得てほしい」というメッセージです。興味深いのは、それが高校生を対象とするキャリアデザインとの講演はもちろん、60代を対象とするリタイアメントプランの講演でもスタンスは同じという点です。「どの年代であっても、今までの経験や知識を活かして社会に役立つことはいくらでもあることを知ってもらいたい」という思いが込められています。

実際、横江さんの講演をきつ



大手楽器メーカーから保険会社に転職したのち、昭和58年に保険代理店として独立。各保険業資格のほか、平成9年にCFP®を取得。平成16年に金融広報アドバイザーに就任し、同年NPO法人を立ち上げ、以来毎月金融に関する市民講座を開催中。現在、金融広報アドバイザーに加え、保険・金融・ライフプランに関する研修講師として全道を飛び回るほか、札幌学院大学、札幌国際大学の講師としても活躍中。

けに、リタイア前後の人たちが、「何か新しいことを始めよう」とファイナンシャル・プランナーの資格取得などに挑戦することも多いそうです。

「そうして60代、70代の人々が結構合格するんです。『知らないことがあれば知っている人に聞けばいいけれど、もつといいのは、自ら学んで人に教えたり、学んだことを人のために活かすことですよね』と言うと、みなさん納得されるんで

す。私が少し元氣を注入することでもう少し頑張ってみようかなって思ってもらえる。これがやり甲斐ですね」と横江さんは話します。

横江さんの講演にそこまで影響力があるのは、横江さん自身が「人生いくつになっても不可能はない」ことを実現し、証明してきた人だからです。40代で一念発起して完走したフルマラソンを皮切りに、トライアスロン、クロスカントリ、サックス、演劇など、仕事

以外のさまざまな趣味を見つけて本気で挑戦し続けています。

「いろいろな趣味や技能や資格など、今ある自分の世界以外のものに触れ、仕事以外の交友関係を広げること、人生の幅も広がり、いろいろな価値観を持つことができます。そこから得るものも大きいのですよ」というわけです。

金融広報アドバイザーとして、日々豊富な話題で受講生を楽しませている横江さん。自ら「明るく楽しく前向きに」生きる姿勢こそが、横江さんの目標である「希望・勇気・元氣」を人々に与え、心を動かす原動力になっているようです。

「金融広報に携わることで、私は張り合いのあるステージをいただいています。健康の続く限り、生涯現役で自分の人生劇場を堂々と演じきっていききたいですね」と横江さん。目標は世界最高齢の125歳だそうです。

北海道金融広報委員会
金融広報アドバイザー

横江光良

知るぽるとファミリーのご紹介

ここにいる矢口（やぐち）家は、金融広報中央委員会「知るぽると」の活動をサポートしてくれる7人（+1匹）家族。「知るぽると」のイメージキャラクターです。いつも元気で、にぎやかな矢口家と、ご近所さんと仲間たちも加えて「知るぽると」のホームページや冊子、イベントなど、あちこちで出会うはず。そのときはどうぞよろしくおねがいします。



矢口（やぐち）家

「知るぽると」の“知”にちなんだ名前です



矢口 千太郎（やぐち せんたろう）

<41歳・電器メーカー営業>

矢口家のお父さん。ちょっとあわて者だけど勉強家。そろそろ家を建てかえたいと思っており、将来設計をしっかりとしくちゃ、とあせり始めている。



矢口 一海（やぐち かすみ）

<17歳・高校2年生>

矢口家の長女。やさしくて、マメな性格。小学生の時から、日記とお小遣い帳は欠かさずつけている。最近、週末の短期バイトを始めた。



矢口 円（やぐち まどか）

<40歳・スーパー店員>

矢口家のお母さん。おおらかな性格で、しっかり者。趣味は、やりくりと家計簿付け。最近、お友だちと教育費の話をするが増えた。



矢口 十平（やぐち じゅっぺい）

<13歳・中学1年生>

矢口家の長男。3人姉弟のまん中で、ちゃっかりお調子者。部活で遅くなることも多いので、ケータイ電話を買ってもらおうともくろんでいる。



矢口 金助（やぐち かねすけ）

<70歳>

矢口家のおじいちゃん。パソコンを使い始めたばかりで、いろいろなホームページをのぞく毎日。孫たちの年金が気になってきているため、資産運用の見直しを考えている。



矢口 百太（やぐち ももた）

<7歳・小学2年生>

矢口家の次男。やんちゃで好奇心が旺盛。小学校に入ってから貯め始めたお小遣いで、宇宙旅行に行くのが夢である。



矢口 キン（やぐち きん）

<66歳>

矢口家のおばあちゃん。おしゃべり好きで、お友だちとの旅行が趣味。将来家族の負担にならないようにと、健康と保険には人一倍興味がある。



矢口 イチ（やぐち いち）

<2歳>

雑種のオス。百太が小学校に入学したとき、おじいちゃんからもらった。百太の弟的存在。矢口家改築の際には、ひそかに犬小屋のリフォームを希望している。



*詳しい情報は、知るぽるとホームページをご覧ください。

知るぽると

検索



読者のみなさまの声を紹介します。
ありがとうございます。

●確定申告についての項で、e-Tax についての紹介がありました。が、次年度は是非この方法で利用してみたいですね。税務署までの手数を考えたら前向きにやってみようと思うところですよ。

(北海道・さつげんさん)

●巻頭インタビューの服部幸應さん。食による教育、食育を掲げ、食育基本法の制定に、力を注ぎ、次の目標は、日本食の世界無形文化遺産の登録。陰ながら、応援しています！

(新潟県・大川勇さん)

●山田真哉さんの連載エッセイ楽しみにしています。転職し、こんなに詳しく経済を説かれる方になられたのがまず、すごいなと思います。どうやってそんなエネルギーが湧いてくるのかなと思います。本当にすごい。少しずつエッセイで教わるのが楽しみです。何気なく見過ごしている税についてよくわかってよかったです。

(滋賀県・匿名希望さん)

●初めて読ませていただきましたが、全般的に記事内容は濃いもの。読みやすく、わかりやすい記事になっていると思います。今回の特集となっている医療と保険の考え方については、とても参考になりました。後略

(山口県・山口のバンカーさん)

●「病氣や怪我に備える」大変参考になりました。TVで保険に関するCMが頻繁に放映されていますが実感がわきません。具体的数字に基づいた本記事は説得力があります。まづ病氣にならないよう心がけていきたいと思っています。

(埼玉県・T生さん)

●わたしはダマサレナイ、とても身近にありうるお話ばかり。いつ、そんな事があるのか、私はないと思っている人ばかりなので、人ごとではないなとも思っています。

(岐阜県・M I H Oです!!さん)

知るぽるとクイズ

以下のヒントをもとに故事ことわざなどを考えてみてください。一番最初の文字をつなげると、本誌に登場した印象的な言葉が浮かび上がってきますよ。さて何でしょうか？

ヒント

- A. 意外なところから意外なものが
- B. 気の持ち方ひとつで重くも軽くもなります
- C. 食べてから決めましょう
- D. すばらしい才能です
- E. 圧倒される雰囲気です

A.					カ	ラ	コ	マ
B.					キ	カ	ラ	
C.				ギ	ラ	イ		
D.				カ	ン	パ	ツ	
E.				ド	ウ	ド	ウ	

※答えは次号掲載

●前号の答え

イリヨウヒ

長い人生、医療費についての知識は十分に備えていたものですが、普段の生活でも、病氣や怪我をしないよう心がけることが大切ですね。

おたより募集

「くらし塾 きんゆう塾」では、皆さまからのおたよりを募集します。クイズにお答えいただいた上で、下記宛先までお送りください。平成24年5月31日までにご意見をくださった方の中から、抽選で10名の方に、「日めくりカレンダー」をプレゼントいたします。また、おたよりを本誌に掲載させていただいた方には、「知るぽると特製ボールペン*＆メモ帳」をプレゼントいたします。

※使い終わった紙幣の裁断片が入っています。

●記入していただきたいこと

- ①本号で面白かった記事
- ②本号で「もう一工夫ほしい」と思った記事
- ③今後、取り上げてほしいと思うテーマ
- ④一言ご感想
- ⑤この広報誌を知ったきっかけまたは場所
- ⑥知るぽるとクイズの答(左記参照)
- ⑦ご住所・お名前・電話番号
- ⑧「読者のおたよりコーナー」への掲載希望の有無/掲載するに当たり、本名ではなくペンネームをご希望の場合はペンネーム

※いただいた個人情報は、プレゼントの発送、誌面への掲載に関してのご連絡についてのみ、使用させていただきます。

●宛先

郵送 : 〒103-8660 東京都中央区日本橋本石町2-1-1

日本銀行情報サービス局内

金融広報中央委員会「くらし塾 きんゆう塾」担当宛

メール : info@saveinfo.or.jp

FAX : 03-3510-1373

金融広報中央委員会「くらし塾 きんゆう塾」担当宛

都道府県金融広報委員会一覧

委員会名	郵便番号	住所	電話番号
北海道金融広報委員会	〒060-0001	札幌市中央区北1条西6-1-1	011(241)5314
青森県金融広報委員会	〒030-8570	青森市長島1-1-1	017(734)9209
岩手県金融広報委員会	〒020-0021	盛岡市中央通1-2-3	019(624)3622
宮城県金融広報委員会	〒980-8570	仙台市青葉区本町3-8-1	022(211)2523
秋田県金融広報委員会	〒010-0921	秋田市大町2-3-35	018(824)7814
山形県金融広報委員会	〒990-8570	山形市松波2-8-1	023(630)3237
福島県金融広報委員会	〒960-8614	福島市本町6-24	024(521)6355
茨城県金融広報委員会	〒310-8639	水戸市南町2-5-5	029(224)2734
栃木県金融広報委員会	〒320-8501	宇都宮市埴田1-1-20	028(623)2151
群馬県金融広報委員会	〒371-8570	前橋市大手町1-1-1	027(226)2273
埼玉県金融広報委員会	〒333-0844	川口市上青木3-12-18 SKIPシティ A1 街区2F	048(261)0995
千葉県金融広報委員会	〒260-8667	千葉市中央区市場町1-1	043(225)7141
東京都金融広報委員会	〒103-8660	中央区日本橋本石町2-1-1	03(3277)3788
神奈川県金融広報委員会	〒221-0835	横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2	050(7506)1128
山梨県金融広報委員会	〒400-0032	甲府市中央1-11-31	055(227)2419
長野県金融広報委員会	〒380-0936	長野市岡田178-8	026(227)1296
新潟県金融広報委員会	〒951-8622	新潟市中央区寄居町344	025(223)8414
富山県金融広報委員会	〒930-0046	富山市堤町通り1-2-26	076(424)4471
石川県金融広報委員会	〒920-8678	金沢市香林坊2-3-28	076(223)9519
福井県金融広報委員会	〒910-8532	福井市順化1-1-1	0776(22)4495
岐阜県金融広報委員会	〒500-8570	岐阜市数田南2-1-1	058(213)9257
静岡県金融広報委員会	〒420-8720	静岡市葵区金座町26-1	054(273)4112
愛知県金融広報委員会	〒460-8501	名古屋市中区三の丸3-1-2	052(954)6166
三重県金融広報委員会	〒514-0004	津市栄町1-954 三重県栄町庁舎3階	059(246)9002
滋賀県金融広報委員会	〒520-8577	大津市京町4-1-1	077(528)3412
京都府金融広報委員会	〒604-0924	京都市中京区河原町通二条下ル 一之船入町535	075(212)5193
大阪府金融広報委員会	〒530-8660	大阪市北区中之島2-1-45	06(6206)7748
兵庫県金融広報委員会	〒650-0034	神戸市中央区京町81	078(334)1129
奈良県金融広報委員会	〒630-8213	奈良市登大路町10-1	0742(27)5454
和歌山県金融広報委員会	〒640-8319	和歌山市手平2-1-2 和歌山ビッグ愛8階	073(426)0298
鳥取県金融広報委員会	〒680-8570	鳥取市東町1-271	0857(26)7160
島根県金融広報委員会	〒690-8553	松江市母衣町55-3	0852(32)1509
岡山県金融広報委員会	〒700-8707	岡山市北区丸の内1-6-1	086(227)5128
広島県金融広報委員会	〒730-0011	広島市中区基町8-17	082(227)4268
山口県金融広報委員会	〒753-8501	山口市滝町1-1	083(933)2608
徳島県金融広報委員会	〒770-8570	徳島市万代町1-1	088(621)2258
香川県金融広報委員会	〒760-0023	高松市寿町2-1-6	087(825)1104
愛媛県金融広報委員会	〒790-0003	松山市三番町4-10-2	089(933)6308
高知県金融広報委員会	〒780-0870	高知市本町3-3-43	088(822)0114
福岡県金融広報委員会	〒810-0001	福岡市中央区天神4-2-1	092(725)5518
佐賀県金融広報委員会	〒840-0815	佐賀市天神三丁目2-11 アバンセ3階	0952(25)7059
長崎県金融広報委員会	〒850-8645	長崎市炉粕町32	095(820)6112
熊本県金融広報委員会	〒862-8570	熊本市中央区水前寺6-18-1	096(383)2323
大分県金融広報委員会	〒870-0023	大分市長浜町2-13-20	097(533)9116
宮崎県金融広報委員会	〒880-0805	宮崎市橘通東4-3-5	0985(23)6241
鹿児島県金融広報委員会	〒890-8577	鹿児島市鴨池新町10-1	099(286)2544
沖縄県金融広報委員会	〒900-8570	那覇市泉崎1-2-2	098(866)2187

くらし塾 vol.20
さんゆう塾

平成24年4月発行

- 編集・発行
金融広報中央委員会
- 編集協力
廣告社株式会社

©金融広報中央委員会 禁無断転載

編集後記

春になり、就職や進学など生活環境が変わった方もいらっしゃると思います。今号では、常に新しいことへ挑戦される日野原重明先生にインタビューをお願いしたほか、伊藤元重先生に今後の日本経済の展望などに関する特別寄稿文をお願いしました。皆さまからののおたよりをお待ちしています。

*本誌は全国の金融広報委員会等でお配りしています。個人の方の定期購読はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。

*なお、既刊号全号をPDFファイル形式で「知るぽると」ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

<http://www.shiruporuto.jp/about/kurashijuku/>

中学生・高校生・教育関係者を対象とする

作文・小論文コンクールの審査結果

金融広報中央委員会では、中学生や高校生に金融・経済への関心を高めていただくこと、また教育関係者の方々の間でこれからの時代に求められる金融教育のあり方について議論を深めていただくことを目的として、毎年、作文・小論文コンクールを実施しています。

厳正な審査の結果、今年度は以下の方々が上位に入選されました。

■第44回「おかねの作文」コンクール 特選



応募総数：4,120 編

金融担当大臣賞	「後悔しないお金の遣い方」 國井 日南子さん（東京都 学習院女子中等科 2年）
文部科学大臣賞	「理想的なお金の使い方」 細川 莉穂さん（香川県 高松市立牟礼中学校 2年）
日本銀行総裁賞	「意志のあるお金とは」 和泉 愛さん（愛知県 岡崎市立矢作北中学校 1年）
日本PTA全国協議会会長賞	「お金から学んだこと」 竹本 堯史さん（滋賀県 滋賀大学教育学部附属中学校 3年）
金融広報中央委員会会長賞	「世界がつながる親切なお金」 小宮 聴善さん（海外 シンガポールアメリカンスクール 8年）

■第9回「金融と経済の明日」^{あす}高校生小論文コンクール 特選



応募総数：1,579 編

金融担当大臣賞	「イリョウノミライ」 森山 心月さん（大分県 大分県立大分鶴崎高等学校 1年）
文部科学大臣賞	「地域経済の活性化・発展に向けて」 藤山 はるなさん（京都府 京都府立京都すばる高等学校 3年）
日本銀行総裁賞	「経済を活性化させる信頼もコストのうち」 岩間 優さん（東京都 桜蔭高等学校 2年）
全国公民科・社会科学教育研究会会長賞	「立ち上がれ日本！震災復興と日本経済のこれから」 天下井 恵理さん（栃木県 佐野日本大学中等教育学校 4年）
金融広報中央委員会会長賞	「日本のこれからを働く女性に託する」 有地 志帆さん（埼玉県 埼玉県立浦和第一女子高等学校 2年）

■第8回「金融教育を考える」小論文コンクール 特賞



応募総数：26 編

特 賞	「需要と供給ってなに？」からはじまる経済学習の単元開発 ～「西小プロジェクト2011 私たちの暮らしと経済」の実践を通して～ 殿岡 正英さん（静岡県 焼津市立大井川西小学校教諭）
-----	---

■入賞作品は、知るぽるとのホームページ（<http://www.shiruporuto.jp/>）でご覧になれます。

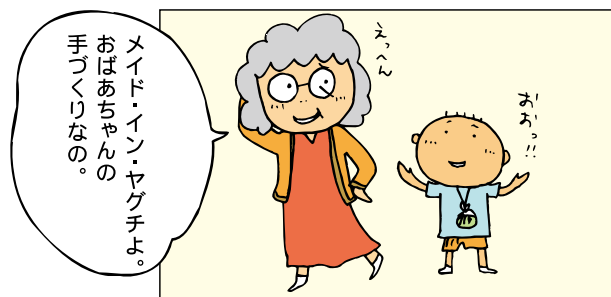
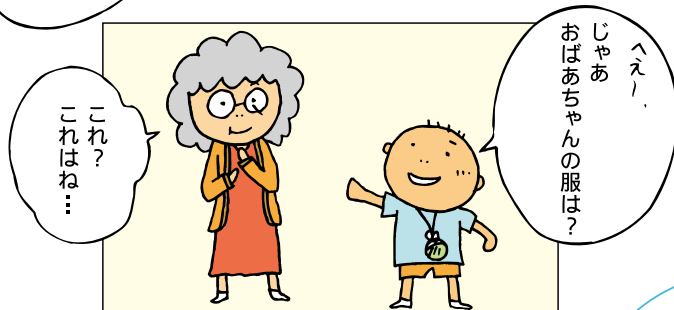
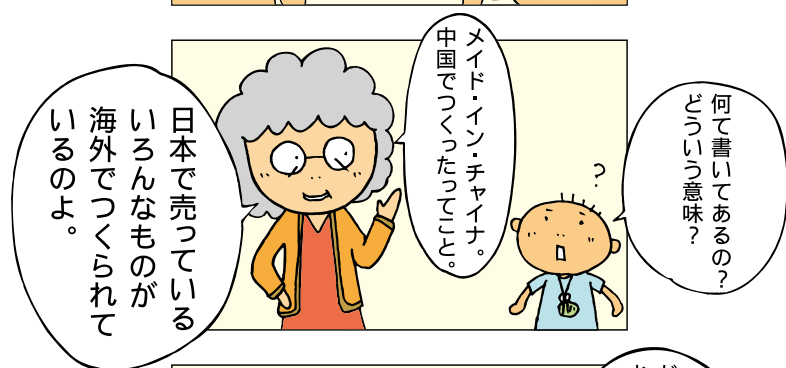
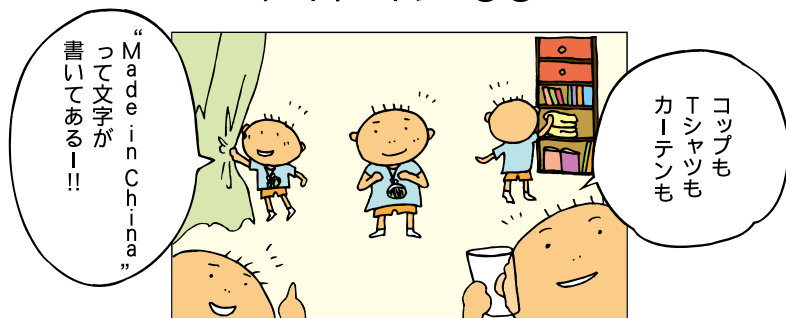
■これらのコンクールは、2012年度も実施（6月頃募集開始）予定です。多数のご応募をお待ちしております。

知るぽるとホームページの楽しい親子向けコンテンツです!

おかねのね

メイド・イン・〇〇

小学生を対象とした教材で、ご家庭で保護者と一緒に楽しくお金の知識を学べます。
68テーマについて、4コマまんがと子ども向けページ、大人向け解説ページがあります。
親子で一緒に、クイズに挑戦したり、ワークをやってみませんか?



*「おかねのね」に登場する一家は「矢口(ヤグチ)」家。
この名字は「知るぽると」の「知」にちなんだものです。

知るぽるとホームページ
おかねのね
おかねのやくわり道場
(小学5・6年生)より。
海外との間で
ものやお金が
やりとりされていることを
理解させましょう。

<http://www.shiruporuto.jp/teach/katei/okanenone/>

知るぽると <http://www.shiruporuto.jp/>

●「知るぽると」は金融広報中央委員会の愛称です。金融の情報が集まる「港」であり、分かりやすい金融の知識への身近な「入り口」です。